

南日本新聞掲載 (R3.6.4)

リュウキュウアユの保護活動【文部科学大臣賞】

リュウキュウアユ 絶滅危惧種 保護15年

住用小(奄美) 文科大臣賞



絶滅危惧種リュウキュウアユの保護に取り組む奄美市の住用小学校が、2021年度野生生物保護功労者表彰(環境省、日本鳥類保護連盟主催)で、文部科学大臣賞を受けた。15年続ける産卵地の整地や生態の学習活動が評価された。児童は「これからも身近な自然を守っていきたい」と喜んでる。

リュウキュウアユは19 卵場所となっている。70年代に沖縄で絶滅し、役勝川に近い同校は、地帯奄美大島だけに生息。同地域の自然を守ろうと2000住用の役勝川や住用川が産 6年から活動を始めた。産

リュウキュウアユの保護活動が認められ、文科大臣賞を受けた住用小学校の児童
＝奄美市住用

卵直前の毎年10月末ごろ、児童と保護者らが川底にたまった赤土や岩を取り除き、砂利の間に卵を産みつけやすいようにする。4年

産卵地整地や生態学習に力



川底の藻を食べ成長するリュウキュウアユ

生は食性や生息分布を調べ、校内で学習発表会を開いている。本年度は全国の21個人・団体が表彰された。名瀬

の県大島支庁で5月27日あった式に、全児童19人を代表して出席した6年の濱本紫音さんは「今年も丁寧に整地して、卵をいっぱい産んでもらえるようにしたい。将来は奄美のいろんな川でリュウキュウアユが見られるように活動を続ける」と話した。

(木下瑛司)



役勝川で産卵しやすくなるように岩や赤土を取り除く児童
＝2020年10月25日、奄美市住用(住用小学校提供)